

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



陽實分教会

昭和10年11月3日 設立

本年の活動目標

「おぢぼがえり」

- ・「喜びいっぱいのおたすけ」を目指し、さあ、おぢぼに帰ろう。
- ・「人だすけのおぢぼがえり」を通して、ぢぼ一つに心を寄せよう。

立教185年
4月号

おつとめまなび総会
開催
少年会



てをどりは見よう見まねで

少年会笠岡団(武内正美団長)は4月1日、おつとめまなび総会を開催、少年会員117人、育成会員91人、総数208人(受付数)が参加しました。今年も、コロナ禍の中での開催とな

りましたが、200人を超える参加者の御守護をいただきました。おつとめまなびは、座りづとめ・よろづよ八首を参加者全員でつとめ、式典・お楽しみ行事と2時間ほどの総会でしたが、賑やかに勤めさせていただきました。大教会長様には、育成長として初めておつとめいただきました。

昼食は、ハンバーガーセット、カレー、スイーツとボリューム満点のお弁当で、大人も子供も大満足のメニューとなりました。年に1度のこの総会は、個々の教会で子供におつとめを教え共々に練習し、大教会でつとめさせていただく、大変意義深い行事です。毎年開催することに、大教会長様も大変お喜びに

なっております。将来の個々の教会において、重要なよふぼく育成の場となつてこの総会を、皆様と共に、さらに内容のあるものになる様、ご助言をいただいてつとめてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(委員 中村 剛 史)



地方・鳴り物を一生懸命につとめる少年会員

学生生徒修養会
大学の部に3人参加
学生担当委員会

本部学生担当委員会主催の「学生生徒修養会大学の部」が、3月2日から6日と、3月8日から12日の2回に分けて開催され、全国から498人が受講した。

笠岡からは、森本善修さん・森本陽気さん(海松ヶ岡)、今川弘子さん(金浦)の3人が参加し、親里で道の仲間と共に、教えを学び、自らの信仰と向き合った。

また、係員として、武内ゆりさん(高屋)、田中舞さん(福山)が、学生の世話取りに当たった。

(笠岡学担当委員長 上原 繁 次)

学修に行つて

金浦分教会 今川 弘子

学修へは会長である父から誘われたのがきっかけでした。

高校を卒業し、大阪で一人暮らしをしながら専門学校に通っていた私は食費などを自分で工面していたこともあり、5日間という長期間開催される学

修へは参加することに正直前向きにはなれませんでした。

高校が天理教校学園高等学校だったこともあり「お道」の勉強をするのもう充分だと考えて渋っていたという人も少なからずありました。

しかし高校時代の同級生も何人か参加するという話を聞き、学修への参加を決めました。

結果高校時代の同級生には会えませんでした。学修は想像と違いとても楽しく、そして自分のなかでの「お道」の考え方がはっきりと変わった機会でした。

同世代の人たちばかりなのでとても話しやすくお道のことへの考えや今のつきあいかたを知れ、そしてたくさんの講話を聴くなかで感じた疑問点や昔から感じていた教えのなかでの疑問点を建前なしで口に出して自分のなかで解決できたこと。

今まで大人には聞けなかった腑に落ちなかったことなども一緒に考えて答えを出したりしました。

本当に学修は私のなかで大きなものになりました。私の班は大教会の次期教会長になる

人や自分が信仰初代である人がいてとても様々な意見や考えが聞けたグループでした。

学修の期間中に大亮様とお話しさせていただく機会があり、その中で「真柱になると決まるまでと決まってから思いや向き合い方」をお聞きしてスツと心に入ってくるものがありました。

なぜなら私のなかでの今回の学修での個人的なテーマは「これから就職して社会に出ていく自分」と「天理教」との向き合い方だったからです。このために私は引き寄せられたのだと思います。

「教会後継者だけど継ぎたくない」「これからどうやって天理教と付き合っていくか」など色々な悩みをもつ学生に対して優しく親しく、そして笑顔でお話ししてくださっているのを見て大袈裟ですが大亮様も一人の人なのだとても親近感もちました。

おぢばを始め、天理教から約1年離れていた私が再度「おひきよせ」される結果となった今回の学

修。

たくさん学生の信者の人たちと関わり意見を交わしたくさん学んで、自分のなかの世界が広がった5日間であり、今までで一番天理教の教えが好きになった5日間でした。

これから就活が始まり、放っておけばどんどんお道から離れていくようになるかもしれません。

私はそうならないように月に1度は天理に帰ろうと思います。道はずれないよう自分のなかで信仰心をしつかりもつて道を歩めるようにしていきたいと思えます。



おぢばに集う学修生たち

三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には子供かわい一杯の親心から 日々は大難を小難に 小難を無難にして結構にお連れ通り下さるばかりではなく 世界に事情を見せて心の立て替えを促し 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共はお見せ頂く姿に親心を思索し 時には迷いつつも ご恩報じの思いを胸に日々は朝夕に御礼申し上げ たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの名称にお許しを戴いた月次の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて 三月の月次祭を執り行なわせて頂きます 御前には今日の日を樂しみに 寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は おちばにて学生生徒修養会大学の部が開催され 数名の学生が参加してくれました 参加して良かったという喜びの声を耳にし 改めておちばで開催される行事の有難さを感じさせて頂きました 難しい状況の中開催を決断して下さった本部学生担当委員会の方々に感謝申し上げますと共に 今月末に開催される春の学生おちばがえりにも 一人でも多くの学生に参加してもらえようつとめさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 旬々にお掛け頂く親の声を頼りに成人の道を歩む皆の真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけを願う誠の心の理に自由の御守護を賜り お望み下さる陽気づくめの世界へとお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

春 季 霊 祭 祭 文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に笠岡の道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様の妙なるお導きにより お道の人となられ思召に添う陽気ぐらし世界の実現の為にたすけ一條に邁進されました 今日結構な笠岡の道の姿があるのも 祖霊様方が真実を尽くして下されたお陰と 日々は朝夕に御礼を申し上げますと共にたすけ一条の上に努め励ませて頂いております その中にも本日は 春の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕者一同 親神様の御前にてをどろをつとめさせて頂きました 続いて祖霊様方の在りし日を偲び御遺徳を称え お礼申し上げます 祖霊様方には 御心をお安め下さいますようお願い申し上げます

さて今年笠岡では 次なる塚教祖百四十年祭に向かって 「おちばがえり」を主眼に置いて活動を推し進めております 笠岡に繋がるお互いが一回でも多く人だすけのためのおちばがえりをすることで成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒祖霊様方には どんな中でも親孝心一筋で たすけ一條に邁進する皆の真実の状をご覧下さいまして より一層笠岡のたすけの道が延び広がりますようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十五年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者	
									大	前	上	大	前	上	中				中	佐	横山逸郎	上原浩
佐藤香苗	今川智子	上原順子	上原浩	吉岡壽	内海史郎	岡崎真一	三島渉	今川昌彦	田中ますみ	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	中村義太郎	中村道徳	佐藤道孝	武内正美	横山逸郎	上原浩	大	大
三島照美	高木孝子	内海安子	赤木素志	森本忠善	浅野明教	吉岡誠一郎	高木昭祥	岡田誠	横山小智榮	門脇加津	武内正美	武内清明	中島誠治	上原志郎	上原繁次	横山逸郎	岡崎真一	五月講話	指図方	賛者	高木昭祥	高木昭祥
吉岡八恵	田中つかさ	岡崎豊子	三代温生	渡邊隆夫	杉原善朗	内海史郎	山田敏教	浅野明教	山野なつ美	中村初美	谷内美知子	山内弘実	谷内伸自	田中隆之	佐藤真孝	虫明立生	今川昌彦	少年会育成講習会	田中隆之	佐藤真孝	高木昭祥	高木昭祥

立教百八十五年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者		
									大	前	上	大	前	上	中				中	杉	今	前	武内清明 <th>岡崎真一 <th>大 <th>大 </th></th></th>
岡崎豊子	森本富美子	前奥様	浅野明教	岡崎真一	岡田誠	中村剛	谷内伸自	上原浩	谷内美知子	上原順子	大教会奥様	田中隆之	上原繁道	大教会長様	杉原善朗	今川昌彦	前会長様	武内清明	岡崎真一	大	大	大	大
岡崎和美	笹尾一美	門脇加津	赤木素志	高木昭祥	虫明立生	中村道徳	三島渉	佐藤真孝	田中つかさ	山野なつ美	吉岡八恵	横山逸郎	吉岡誠一郎	中島誠治	上原繁次	森本忠善	山野弘実	指図方	賛者	浅野明教	浅野明教	浅野明教	
																		上原志郎	岡田誠	浅野明教	浅野明教	浅野明教	

「行列のできる勉強会」開催 布教部

布教部(田中隆之部長)は、去る3月21日、笠岡大教会で、「行列のできる勉強会」を開催した。

この勉強会は、にをいがけ・おたすけに役立つ知識の習得と教理の研鑽を目的に実施されている。

今回は、倉敷市所在「児童発達支援センタータクトムレ」の牧由佳里先生(児童発達支援管理責任者)に、「発達障害の理解と支援」と題してお話ししてもらい、発達障害の概要と支援の方法を学んだ。

新型コロナウイルス対策として、講義はオンラインで三密を避けて行った。現在、コロナ禍で行事の自粛が常態化しており、この度の勉強会実施が十分に周知されておらず受講者は27人と少人数であったが、大教会長様を始め参加者は皆熱心に聞き入り、質疑を行った。

今回は6月21日、月次祭終了後開催。申し込み不要でどなたでも自由に参加可能。(副部長 佐藤真孝)

大教会だより

◎職制人事

立教185年3月21日付

史料部

笠岡の道編纂委員会

委員

- 上原繁道 門脇元教 山野弘実 上原繁次 岡崎治喜

◎教会指令

◎任命願

福南 分教会

- 前任 掛谷和由 新任 掛谷善成



掛谷善成氏

☆奉告祭

立教185年5月4日 立教185年4月25日承認

◎教会長資格検定講習会修了者

立教185年4月17日終講

上川邊 友井正人



「ピンポーン」

突然チャイムの音。誰だろうと出てみると、小学6年生の孫息子の男友達3人が玄関前にいる。

下校中で、ウンコがしたくて家まで我慢出来ないとのこと。「早う行き」と言うと、参拝場にランドセルを放り投げ一目散にトイレに。すっきりしたのだろう「ありがとうございました」と言いながら神殿の中をキョロキョロと見回している。「珍しい?」と聞く。「うん。広いなあ」との返事。友達が待っていたのでそそくさと帰って行った。

暫くすると、またチャイムの音。神殿掃除中だった。今度は2年生の孫娘の友達3人。なぜか男の子。一緒に遊ぼうと家に行ったが居ないため、教会に居るのかと思いついたことだが来ていなかった。よく来る子たちで駐車場が遊び場だ。孫達は教会から徒歩で2分程の所に住んでいる。この際だと思いついて「中に入り」と声を

掛けた。神殿に入るのは初めてだと思う。すると一番やんちゃな子が親神様のお社を指さして「ありやー何」と神妙な顔をして聞く。「人間をつくつてくれちゃった神様がおつてんよ」と私。「ほんま。でも見えんじや」と彼。「ほんまよー。鏡があるじやろうが。皆が仲良くしようるかしようらんか全部映つて見とつてんじや」と話す。きよとんとした顔で聞いていたが興味津津の様子。

残念ながら我教会、祭典日以外、大人の参拝者はほとんど無いが、孫たちのお陰か子ども達はよく遊びに来られる。子ども達が帰った後、ふと思いついた。

「日々鍛錬し、いつ来るともわからぬ機会に備えよ」

連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」(NHK・4月8日終了)の中で、映画村に所属する斬られ役専門のベテランの俳優・伴虚無蔵がヒロインに度々掛ける言葉だ。

今、この子たちには神様のことはよく分からないと思う。しかし教会に遊びだけに来てくれていた子達が、いつの日かこの教えを理解し実行してくれるたらと願う。

現在、コロナ禍で活動は限られているが、その中で何が出来るか、そしてその実現のために「何を日々鍛錬」するか、今一度、真剣に考えてみなければ——と思う今日この頃だ。(あ)